

2022 年度(令和 4 年度)

エコアクション 21

環境経営レポート

対象期間:2022 年 4 月～2023 年 3 月

作成:2023 年 8 月 31 日

日本エクスラン工業株式会社

環境エンジニアリング事業部 分析センター

環境経営レポート

<目次>

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲	2
3. 環境経営方針	2
4. 実施体制	3
5. 環境経営目標（中期）	4
6. 2022年度の環境経営計画・実績と次年度の取り組み	5
7. 2022年度の環境経営目標・実績	6
8. 2022年度の評価	7
9. 環境関連法規への違反・訴訟等の有無	8
10. 代表者による全体評価と見直し・指示	9

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者

日本エクスラン工業株式会社 環境エンジニアリング事業部 分析センター
センター長 天野 順行

(2) 所在地

〒704-8194 岡山県岡山市東区金岡東町三丁目3番1号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

(電話)086-943-7253 (FAX)086-943-9105

(ホームページ)<http://www.extec.co.jp/>

環境管理責任者 環境分析部 藤久保亮

(4) 事業の概要(分析センター)

- ①濃度計量証明, ②音圧レベル計量証明, ③振動加速度レベル計量証明
④作業環境測定, ⑤飲料水水質検査, ⑥一般分析, 測定及び試験

(5) 事業の規模

＜日本エクスラン工業株式会社の全組織＞

事業部門	従業員数
本社	23 名
西大寺工場	207 名
環境エンジニアリング事業部	
分析センター	65 名
エンジニアリングセンター	12 名
総務部	2 名

※太字網掛け部:対象組織

2. 対象範囲

(1) 登録組織

分析センターの全組織

(2) 登録事業

登録事業は、上記「(4)事業の概要(分析センター)」の全事業である。

3. 環境経営方針

環境理念

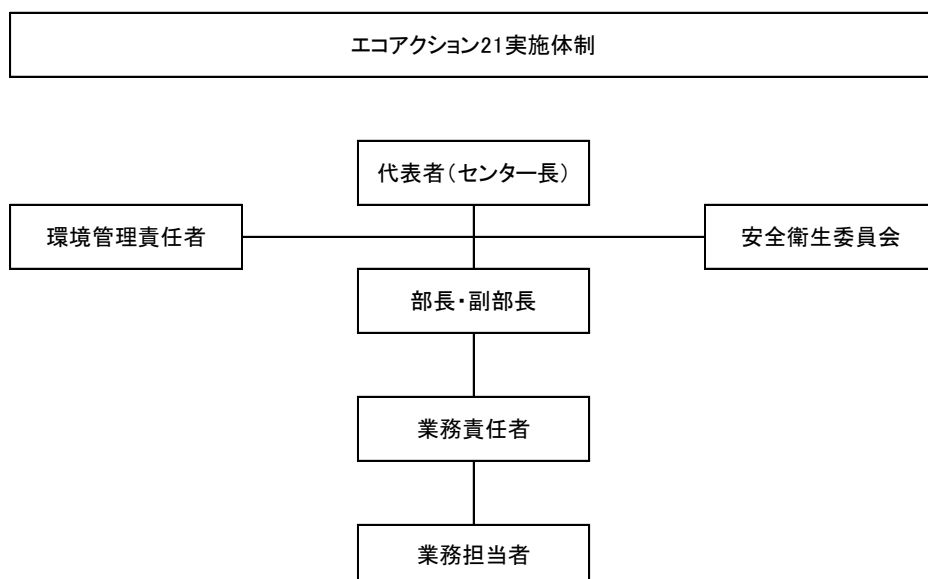
日本エクスラン工業株式会社 環境エンジニアリング事業部 分析センターは、
人と自然の健全な発展に寄与することを使命とし、環境分析関連サービスを通じて
地域社会と地球環境保全に貢献します。

行動方針

1. 環境活動への取組みを通して業務の見直し(無理・無駄の排除)を図ります。
2. 二酸化炭素排出量の削減を図るため、主要因である電力消費量等の削減に努めます。
3. 廃棄物の3R(リデュース, リユース, リサイクル)に取り組めます。
4. 日常業務においては節水を行い、総排水量の削減に努めます。
5. 事業活動で用いる化学物質を適切に管理し、環境への排出量の削減に努めます。
6. 地域社会が取り組む環境保全活動に、当社の特質を生かして機能的に対応します。
7. 環境に関する法規等を遵守します。
8. 環境活動内容の周知を徹底し、全員で継続的改善に取り組めます。
9. 再生可能エネルギーや廃棄物処理に係る業務を通じて、地球環境保全に貢献します。

2023 年 7 月 26 日 改訂
日本エクスラン工業株式会社 環境エンジニアリング事業部 分析センター
センター長 天野 順行

4. 実施体制



職階層	役割・責任
代表者(センター長)	(1)経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。 (2)環境経営に関する方針(環境経営方針)を定め、誓約する。 (3)エコアクション 21 を運用、維持し、環境経営を実践するために、以下の事項を実施する。 ・効果的で必要十分な実施体制を構築する。 ・実施体制においては、各自の役割、責任及び権限を定め、全従業員に周知する。 ・エコアクション 21 を運用し、維持するための経営資源を用意する。 (4)定期的にエコアクション 21 に基づく環境経営全体の取組状況及びその効果を評価し、以下の項目を含む総括的な見直しを実施し、必要な指示を行う。 ・環境経営方針 ・環境経営目標及び環境経営計画 ・実施体制
環境管理責任者	実務上の責任者。 (1)代表者への状況報告、代表者からの指示や運営上必要なことを全従業員に周知。 (2)環境経営計画(案)、実施体制(案)の作成、取組状況及びその効果の集計、各種書類や環境経営レポート(案)の作成など。 (3)安全衛生委員と協力して教育・訓練を実施する。 (4)審査の対応を行う。
副所長・部長	業務責任者から環境経営計画の実施状況報告を受ける。受けた内容は環境管理責任者に連絡する。
業務責任者	環境経営計画内容をグループ内で役割分担を決定し、個人の取組効果が得られるように教育を行い、実施状況を把握する。その結果を部長に報告する。
業務担当者等	環境経営計画に基づき分担した役割について、各人が責任を持って取組み活動する。

5. 環境経営目標(中期含む)

3 年間の中期目標(年率 1%改善, 5 と 6 については固定値)を表-3 に示す。

表-3 3 年間の中期目標

				年度	2022 年度	2022 年度	2023 年度	2025 年度
項目					目標値	実績値	目標値	目標値
1	二酸化炭素排出量			kg-CO ₂	-	232,459	-	-
				kg-CO ₂ /単位売上	411.5	456.0	451.4	442.4
	内訳	電力由来		kg-CO ₂	-	158,412	-	-
				kg-CO ₂ /単位売上	283.4	310.8	307.6	301.5
		化石燃料(ガソリン)由来		kg-CO ₂	-	48,545	-	-
				kg-CO ₂ /単位売上	89.0	95.2	94.2	92.3
		化石燃料(軽油)由来		kg-CO ₂	-	23,461	-	-
				kg-CO ₂ /単位売上	33.2	46.0	45.5	44.6
	蒸気由来		kg-CO ₂	-	2,041	-	-	
			kg-CO ₂ /単位売上	5.9	4.0	3.9	3.8	
2	廃棄物排出量			kg	-	16,991	-	-
				kg/単位売上	24.2	33.3	32.9	32.3
	内訳	一般廃棄物		kg	-	2,666	-	-
				kg/単位売上	4.10	5.23	5.1	5.0
		産業廃棄物(普通)		kg	-	9,166	-	-
				kg/単位売上	11.7	18.0	17.8	17.4
	産業廃棄物(特管)		kg	-	5,159	-	-	
			kg/単位売上	8.46	10.12	10.0	9.8	
3	総排水量			kg	-	8,614	-	-
				kg/単位売上	16.1	16.9	16.7	16.3
4	化学物質使用量			kg	-	379.1	-	-
				kg/単位売上	646.3	743.8	736.3	721.7
	主な物質	アセトニトリル		kg	-	53.5	-	-
				g/単位売上	86.6	105.0	103.9	101.8
		ジクロロメタン		kg	-	2.7	-	-
				g/単位売上	25.0	5.3	5.2	5.1
		トルエン		kg	-	20.0	-	-
				g/単位売上	58.7	39.2	38.8	38.0
	n-ヘキサン		kg	-	271.8	-	-	
			g/単位売上	422.7	533.3	527.9	517.4	
5	製品・サービスに関する環境配慮			-	-	-	-	
	内容	改善提案件数		件	20	13	20	20
6	地域社会が取り組む環境保全活動に参加			件数	2	2	2	2

(注) 電力の CO₂ 排出係数は、LNG による発電における平均的な値 0.6kg-CO₂/kWh を使用。

日本エクスラン工業株式会社西大寺工場から電力を購入。

6. 2022 年度の環境経営計画・実績と次年度の取り組み

表-4 2022 年度の環境経営計画・実績と次年度の取り組み

	実施項目	計画と有効性の評価	
1	二酸化炭素排出量の削減		
	(1)化石燃料使用量の削減	車両の運行方法等による燃料消費量削減	○ 運転日誌に運行記録を残している
	・アイドリングストップ	アイドリングを控える	○ アイドリングを控えている
	・エコドライブ 10 の推進	・急激な加減速をしない等 ・最適な運行ルートを予め確認 ・タイヤの空気圧適正化	○ ○ エコドライブを心がけている ○
	(2)電力消費量削減		
	・電気機器、設備管理	・電気炉、乾燥機等の空運転防止 ・帰宅時 OA 機器 OFF	○ ・機器毎に担当者を決めている ○ ・最後に帰る人は全体チェック
	・照明管理	・業務中以外消灯 ・無駄な蛍光灯の取り外し ・LED 導入	○ ・昼休み等は消灯している ○ ・支障のない範囲で蛍光灯を外す ○ ・更新時に LED を導入している
	・足元ヒーターの管理	・離席時は電源 OFF	○ 実施している
	・エアコンの管理	・設定温度の管理 ・フィルターの掃除	△ ・原則冷房時 28℃、暖房時 20℃としている ○ ・実施している
	(3)蒸気使用量の削減・監視	・毎月の蒸気使用量を監視(漏洩防止)	○ 大幅な使用量増加は見られなかった
2	廃棄物排出量削減		
	(1)コピー用紙使用量削減		
	・裏紙、両面コピー実施	・両面または裏面を利用 等	○ 実施している
	・分別の徹底、再利用	・コピー紙、段ボール、新聞紙 等	○ 実施している
	・ペーパーレスに取り組む	・連絡等可能なものはネットを利用する	○ ネットを活用している
	(2)その他一般廃棄物	・廃棄物の 3R に取り組む	○ 直せるものは直して使うようにしている
	(3)特別管理廃棄物	・分別保管、一括処理委託 ・試料量(分析試料の採取量)の適正化	○ 年数回処理業者に委託している ○ 事前に必要量を確認している
3	総排水量削減		
	水道水使用方法	・流しっ放し防止、適切なバルブ開度 ・漏洩がないか見回り ・毎月の使用量確認と周知	○ ・無駄な放流は控えるよう指導している ○ ・毎月 5S 点検時に実施 △ ・周知が不十分だった
	化学物質使用量削減		
4	PRTR 対象物質の削減	・就業時以外保管庫の施錠 ・購入量、保管量の記録及び使用量の把握 ・ラベルによる管理(PRTR 対象外物質も)	○ ・常時施錠している ○ ・記録、把握している ○ ・試薬瓶にラベルを貼って管理している
	製品・サービスに関する環境配慮		
5	(1)業務の効率化	・改善提案の件数をカウント	△ ・目標数に届かず
6		・児島湖流域清掃の行事に参加	○ ・11 月 6 日に 2 名参加
	地域社会が取り組む環境保全活動に参加	・「鮭の稚魚の飼育、放流企画」の協力(空輸に耐えるよう稚魚を梱包) ・その他センター長が対応可能と判断した活動	○ ・3 月 10 日に近隣小学校において実施した — ・今年度は無し

7. 2022 年度の環境経営目標・実績

表-5 2022 年度の環境経営目標・実績値及び達成率

年度				2021 年度	2022 年度	2022 年度	2022 年度
項目				実績値	目標値	実績値	達成率(%)
1	二酸化炭素排出量		kg-CO ₂	261,749	-	232,459	-
			kg-CO ₂ /単位売上	415.6	411.5	456.0	90.2
	内訳	電力由来	kg-CO ₂	180,235	-	158,412	-
			kg-CO ₂ /単位売上	286.2	283.4	310.8	91.2
		化石燃料(ガソリン)由来	kg-CO ₂	56,640	-	48,545	-
			kg-CO ₂ /単位売上	89.9	89.0	95.2	93.5
		化石燃料(軽油)由来	kg-CO ₂	21,095	-	23,461	-
			kg-CO ₂ /単位売上	33.5	33.2	46.0	72.1
	蒸気由来	kg-CO ₂	3,779	-	2,041	-	
		kg-CO ₂ /単位売上	6.0	5.9	4.0	148.4	
2	廃棄物排出量		kg	15,422	-	16,991	-
			kg/単位売上	24.5	24.2	33.3	72.7
	内訳	一般廃棄物	kg	2,613	-	2,666	-
			kg/単位売上	4.15	4.10	5.23	78.5
		産業廃棄物(普通)	kg	7,427	-	9,166	-
			kg/単位売上	11.8	11.7	18.0	64.9
		産業廃棄物(特管)	kg	5,382	-	5,159	-
			kg/単位売上	8.55	8.46	10.12	83.6
3	総排水量		kg	10,238	-	8,614	-
			kg/単位売上	16.3	16.1	16.9	95.2
4	化学物質使用量		kg	411.1	-	379.1	-
			g/単位売上	652.8	646.3	743.8	86.9
	主な物質	アセトニトリル	kg	55.1	-	53.5	-
			g/単位売上	87.4	86.6	105.0	82.5
		ジクロロメタン	kg	15.9	-	2.7	-
			g/単位売上	25.3	25.0	5.3	472.5
		トルエン	kg	37.3	-	20.0	-
			g/単位売上	59.3	58.7	39.2	149.6
	n-ヘキサン	kg	268.8	-	271.8	-	
		g/単位売上	426.9	422.7	533.3	79.3	
5	製品・サービスに関する環境配慮		-	-	-	-	
	内容	改善提案件数	件	14	20	13	65.0
6	地域社会が取り組む環境保全活動に参加		件数	2	2	2	100.0

(注) 電力の CO₂ 排出係数は、LNG による発電における平均的な値 0.6kg-CO₂/kWh を使用。
日本エクスラン工業株式会社西大寺工場から電力を購入。

8. 2022 年度の実施内容と評価

- ①二酸化炭素の排出量は約 232t-CO₂であった。また、単位売上高当たりの排出量は約 456kg で、目標達成率は 90.2%と目標を下回った。アイドリングストップやエコドライブ、節電等の日々の意識で来年の目標達成を目指す。
- ②廃棄物排出量は約 17t であった。また、単位売上高当たりの排出量は約 33.3kg で、目標達成率は 72.7%と目標を下回った。コピー用紙の使用量節約や試料採取量の見直しを行って、来年の目標達成を目指す。
- ③総排水量は約 8,614m³であった。また、単位売上高当たりの排水量は約 16.9m³で、目標達成率は 95.2%と目標を達成できなかった使用量を周知し、節水を心がけるようにしたい。
- ④化学物質 (PRTR 対象) 使用量は約 379kg であった。また、単位売上高当たりの使用量は約 744g で、目標達成率は 86.9%と目標を下回った。使用量自体は減らせているので、化学物質の使用量は現状を維持して目標達成を目指す。
- ⑤地域社会が取り組む環境保全活動に 2 件参加できた。目標の 2 件を達成した。
- ⑥改善提案は 13 件で、目標を達成できなかった。次年度は改善提案が増えるように積極的に促したい。

9. 環境関連法規等への違反・訴訟等の有無

(1) 環境関連法規の取りまとめ

表-6 主な環境関連法規

法令等	要求事項	遵守・実施状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出	○ 特定施設の届出済(岡山市長) ○ ・実験室洗浄設備(政令 別表第 171 の 2(イ)) ・排水処理施設(政令 別表第 174)
	排水基準の遵守	○ ・処理後分析を行い排水基準に適合した水のみを排出 ○ ・排水を定期的に分析 ・有害物含有廃水は産廃として適正に廃棄
	特定施設の定期点検	○ ・特定施設(流し台, スクラバー付きドラフト)は毎月点検
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の分別処分	○ ・産業廃棄物の種類ごとに分別して処分
	産業廃棄物, 特別管理産業廃棄物の収集運搬, 処分委託業者の許可確認	○ ・許可業者に処分を委託 ○ ・許可証が期限切れになっていないか確認
	マニフェストの保存	○ ・管理票は 5 年間保存 ○ ・期限内に管理票(B~E 票)が送付されていることを確認
	マニフェスト交付状況の岡山市への報告(電子マニフェスト除く)	○ ・紙マニフェストについては 6 月 30 日までに報告
毒物及び劇物取締法	特定毒物研究者許可取得確認	○ ・特定毒物研究者許可取得済(岡山県知事)
	保管場所に「医薬用外毒物」「医薬用外劇物」の表示	○ ・表示している
	盗難・紛失防止措置	○ ・終業時は建屋に対してセキュリティシステムを作動。 ○ ・薬品保管室はナンバーキーで営業時も常時施錠。 ○ ・保管庫の施錠。微量保管の冷蔵庫も施錠。 ○ ・管理簿により毒物の購入量, 使用量, 残量の管理。
化管法(PRTR 法)	排出量等の届出(要否確認)	○ ・第一種指定化学物質の年間取扱量が 1t 以下(特定第一種指定化学物質の取扱量が 0.5t 以下)のため届出不要。 ○ ・使用量を確認し届出が必要な量を取り扱っていないことを確認。
消防法	指定数量の確認	○ ・消防法の適用を受ける量(指定数量)以上の危険物を保管していないことを確認。また少量危険物(指定数量の 1/5 以上の保管は火災予防条例に係る)にも該当しないことを確認。
フロン排出抑制法	・全ての機器の簡易点検(四半期に 1 回以上)と点検の記録・保存 ・圧縮機の定格出力が 7.5kW の機器の定期点検(3 年または 1 年に 1 回以上)と点検の記録・保存 ・点検記録は機器廃棄後も 3 年間保存 ・フロン類の充填・回収は第一種フロン類充填回収業者に依頼 ・委託確認書・引取証明書は 3 年間保存 ・機器廃棄時にフロン回収済み証明(引取証明書の写し)が必要	○ ・該当機器リストを作成し簡易点検を実施。定期点検が必要な機器はない。機器の廃棄もなし。

(2) 違反・訴訟等

環境関連法規への違反はない。なお, 関係当局より違反等の指摘もない。

10. 代表者による全体評価と見直し・指示

代表者による全体評価と見直し・指示を表-6 に示す。

表-7 代表者による全体評価と見直し・指示

	項目	情報・報告の概要	評価		変更の 必要性	指示内容
			システム 機能の 有効性	環境への 取組の 適切性		
1	環境方針	二酸化炭素排出量、廃棄物及び総排水量の削減、PRTR 該当物質他の化学物質排出量の削減、環境に関する法規等の遵守、また地域社会が取り組む環境保全活動に機能的に対応する旨方針に掲げてある。	有効	適切	無	無
2	環境目標	二酸化炭素排出量(電力使用量)、廃棄物、総排水量の削減及び化学物質排出量の削減の目標を数値化し、次年度の目標値が環境活動目標に掲げてある。	有効	適切	無	無
3	環境活動計画	二酸化炭素排出量の削減、廃棄物排出量の削減、総排水量削減、化学物質使用量削減等に関する実施項目を定め、日常的に環境活動に取り組んでいる。	有効	適切	無	無
4	実施体制	効果的で必要充分な、代表者をトップとする全員参加の実施体制が構築できている。	有効	適切	無	無
5	環境経営システム	EA21 による環境マネジメントシステムを構築し運用、実施している。	有効	適切	無	無
6	その他	行政及び地域が取り組む環境保全活動への参加に「児島湖流域清掃」、「鮭の稚魚の飼育、放流企画への協力」等が挙げられる。	有効	適切	無	無
代表者のコメント		現状でシステム機能の有効性及び環境への取組の適切性に問題はないと判断するが、新たな問題が顕在化したり取組に関係するような社会情勢が変化した場合には都度指示を行う。 エネルギーや原材料価格の高騰にあたり、環境負荷の削減がコスト削減につながる事をより強く意識して業務を行う。 センター長 天野 順行				